

第4次大阪府文化振興計画 施策の方向性の骨子（案）

施策の方向性	A 「文化創造の基盤づくり」	府民一人ひとりの自主性や創造性を尊重しつつ、人材の育成や府民意識の醸成等
	①芸術文化を創造し、支える人材の育成・支援の充実	○大阪の優れた文化事業を結集し、国内外に発信するとともに、芸術文化の担い手（若手プロデューサー等）を発掘し、育成するためのプロジェクトを推進 ○上記プロジェクトと連携して、若手アーティストらが作品を発表し、情報を発信できる機会の提供 ○府民に優れた芸術文化の鑑賞機会などを提供し、芸術文化の振興を図るため、府内の芸術文化団体が行う事業への補助事業を引き続き効果的に運用 ○障がい者の創作活動や展示等を推進し、障がい者の文化活動を振興
	②将来の芸術文化の担い手となる青少年の育成	○芸術文化には、子どもや青少年の豊かな感性や創造性を育み、自己表現力やコミュニケーション力を高める力がある ○将来の芸術文化の重要な担い手となる子どもや青少年が、授業や地域活動等を通じて優れた芸術文化に触れ、豊かな感性や創造性を育むための機会を充実 ○子どもたちを対象とする文化活動への補助事業を引き続き効果的に運用
	③芸術文化拠点の充実と府民意識の醸成等	○劇場、ホール等は、芸術文化を創造し、鑑賞する場であり、地域コミュニティとして地域の発展を支えるなど様々な機能を有しており、官民が適切な役割分担のもと、相互に協力しながら設置や立地を誘導 ○多様で特色ある大阪文化に府民が誇りを持ち、活動への参加が進むよう、情報発信や「なにわなんでも大阪検定」の実施等を通じて、より一層府民意識を醸成 ○「メセナ自動販売機」や「Loving OSAKA 納税」（ふるさと納税）など既存の仕組みを最大限に活用しつつ、アーツカウンシルとともにファンドレイジング等、新たな資金獲得手法についての研究を進め、具体化を図る ○文化財の適切な状態での保存・継承を図るとともに、府民が文化財に親しむ機会を充実
	B 「都市のための文化」	2019ラグビーW杯や2020年東京大会を契機として、上方伝統文化の魅力発信や、府内全域における文化事業の推進等
	①大阪が誇るべき上方伝統芸能を活用した魅力発信	○文楽、歌舞伎、演芸等の上方伝統芸能について、歴史的、文化的価値の理解、普及を図り、その保存・継承を支援するため、その魅力を国内外に広く発信 ○国内外の多くの人に上方伝統芸能をはじめ多様な大阪文化を知ってもらうとともに、海外アーティストとのコラボレーションにより大阪文化の更なる振興につなげるため、“大阪文化の祭典”の開催を検討 ○府立上方演芸資料館の使命を再認識し、収集した資料を効果的に活用できるよう、大学等研究機関との連携を進めるほか、展示等を通じて上方演芸の素晴らしさを知ってもらう機会を確保
	②大阪のブランド力を活用した都市の魅力向上と新たな文化の創造	○国内外から大阪を訪れる人が大阪の文化の魅力を堪能し、また来阪してもらえるよう、大阪のブランド力を磨き、文化メニューをふんだんに取り入れた観光ツアーなど、最大限に活用した取組を推進 ○大阪で学ぶ海外の留学生が、大阪の文化を愛する海外サポーターとして、母国に戻ってから大阪の文化や都市魅力を伝える役割を担ってもらえるよう、大阪の文化を鑑賞し、身近にふれ合う機会の提供を検討 ○アーティストの力を発揮して、公共空間の魅力を高めるため、「おおさかカンヴァス推進事業」のノウハウを活用しながら、公共空間（主要駅や街道等）に根付くようなメガアート等の企画展示を行う事業等の検討
	③大阪府内全域を活用した文化事業の推進	○府内各地域では、歴史的なまちなみや豊かなみどりなど、人々の暮らしに根ざした様々な文化資源があり、それらを発掘・再発見し、磨き・際立たせ、結びつけることによって、大阪のまちの魅力を国内外に発信する「大阪ミュージアム」の取組を一層推進 ○府内各地域において文化プログラムが実施されるよう、アーツカウンシルとともに、市町村や民間団体の活動を支援 ○「百舌鳥・古市古墳群」世界文化遺産登録に向けた取組みや、「太陽の塔」の耐震改修や内部展示の再生・公開に向けた取組を進め、文化的価値を向上
	C 「社会のための文化」	人や地域の課題の改善や解決に向けて、芸術文化の担い手、NPO、企業、大学等と連携を図りつつ、システム整備やネットワークの構築等
	①教育、福祉、まちづくり等のあらゆる施策分野への活用	○全国各地域において、教育や福祉、まちづくり等の広範な分野における課題の改善や解決に文化を活用する試みが展開 ○こうした試みは、アーティストやデザイナーの活動領域の拡大、専門人材の集積、新たなビジネスチャンスを進進 ○大阪府立江之子島文化芸術創造センターのプラットフォーム事業を充実強化させるとともに、府内各市町村や民間にもそのノウハウを伝え、文化の活用を支援
②スポーツとの連携による地域活性化	○スポーツは、人間の創造的な文化活動の一つであり、健康の保持増進、体力の向上に資するとともに、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で、文化とともに不可欠 ○スポーツと文化の双方に、お互いの視点や施策を積極的に盛り込んでいき、双方の有する効果を更に向上 ○2019ラグビーW杯や2020年東京大会に向け、市町村が行うホストタウンの活動内容に、文化の取組を積極的に盛り込むことを提案するなど、ありとあらゆる機会を通じて、国内外の人に大阪の文化の魅力を発信	
③文化関係の施設や組織間のネットワークの構築	○子ども、高齢者、障がい者、外国人等、多くの人達が文化を鑑賞し、参加し、創造することにより、社会に参加し、活躍できる機会を広げていけるよう、アーティストやデザイナー、文化施設、学校、福祉施設等との間の連携を促進 ○大阪府立江之子島文化芸術創造センターの特性を活かしながら、行政、企業、NPO等の団体など多彩な交流や出会いの機会を提供していくとともに、大阪で文化活動したい人を集め、大阪でとどまるための支援を行うインキュベーション機能を検討 ○大阪府内にある劇場、ホール等の管理者や関係機関との連携を強化し、ネットワークを構築	